

《担当者名》山田律子[rich@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

認知症の人が尊厳を保ち暮らすことができるように、認知症ケアの哲学を基盤とした専門的知識とケア技法、認知症ケアの質を高めるための研究の動向と課題について体系的に学ぶ。

【学修目標】

- 1) 認知症ケアの諸理論、原理・原則および制度・施策について説明できる。
- 2) 認知症の病態・治療について説明できる。
- 3) 認知症の人と家族のアセスメントとケアの技法について説明できる。
- 4) 認知症ケアの質を高める研究の動向と課題について述べることができる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|--------|--------------------------|--|-----|
| 1 | 認知症ケアの原理・原則 | 1) 認知症とは 2) 認知症ケアの諸理論と原理・原則、ケアの視点 | 山田 |
| 2 | 認知症者の実態と制度・施策 | 1) 国内外における認知症人口学的動向 2) 認知症の人を支える保健医療福祉制度・施策の変遷 3) グローバルな視点からの認知症政策の課題と戦略 | 山田 |
| 3 } | 認知症の病態とケア | 1) 認知症の診断・症状・経過：4大認知症，MCIを含む 2) 認知症の検査・治療、認知機能の評価 3) 認知症の病態を踏まえたケアの視点 | 山田 |
| 4 | | | |
| 5 } | 認知症の人と家族に対するアセスメントとケアの技法 | 1) 認知症の人と家族に対するアセスメントの視点 2) 本人の意思決定を支えるケア技法（環境調整） 3) 認知症の人と家族の事例展開 | 山田 |
| 6 | | | |
| 7 | 認知症の人と家族へのサポート | 1) 認知症の人への家族介護の実態 2) 認知症の人と家族への支援グループと地域包括ケア | 山田 |
| 8 | 認知症ケアの研究 | 認知症ケアの質を高める研究の動向と課題 | 山田 |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

提出物(30%)、討論への参加・発言(30%)、プレゼンテーション(40%)から総合的に評価する。

【参考書】

1. 中島紀恵子(監修)(2017)．認知症の人びとの看護．第3版，医歯薬出版株式会社．
2. ボーデンC./桧垣陽子(訳)(2003)．私は誰になっていくの？ アルツハイマー病者からみた世界，クリエイツかもがわ．
3. 中島健二，下濱 俊，富本秀和，三村 将，新井哲明(編)(2020)．認知症ハンドブック 第2版．医学書院．
4. 日本神経学会(監)(2017)．認知症疾患診療ガイドライン2017．医学書院．
5. 日本認知症学会(編)(2008)．認知症テキストブック．中外医学社．

【備考】

Google Classroomやメールで事前にレジュメを提出した上で、Zoomを利用して発表・討論を行う。

【学修の準備】

課題に対して事前に調べてレジュメを作成し、授業に臨むこと。